



3月は和風月名で「弥生」とも呼ばれます。気温の低い日もありますが、春めいてきました。春の訪れの季節に敏感になる日が多くなりました。大横川の河津桜を楽しんだり、学校の花壇に菜の花を見つけたり、あちらこちらで江東区の春と出会いました。

3月は、進級、卒業を身近に感じる時期です。『今の学年のうちにやっておきたいこと』を俳句にしてみましょう。『やってみたいこと』『最近やったこと』『目標』もいいですねなどの言葉がけで、6年生は『卒業す』、他学年は『進級す』を季語にしました。講師が「例えば、『跳び箱を8段跳んで卒業す』もいい」と伝え俳句を作りました。以下児童の作品を紹介します。

『上ばきをきれいに洗って進級す』 『とび箱で5段合格進級す』
 『教室で笑い合った日卒業す』 『黒板に似顔絵描いて卒業す』
 『教室の時計が光り卒業す』 『卒業後脱走しないで亀さんよ』

また、春の風が似合う季語も提示しました。『しゃぼん玉』『(紙)風船』『かざぐるま』『ぶらんこ』などです。『あと2点まだちっぽけなしゃぼん玉』と詠んだ子がいました。「どんな情景を詠んだのか教えてください」と問いかけたら「サッカーの試合であと2点取りたかった。点が取れたら大きなしゃぼん玉になるんだけど、取れなかったからちっぽけとしました」と話をしてくれました。その子の感性に触れた瞬間でした。ほかの作品も紹介します。

『ぶらんこで友だちと勝負あと少し』 『いやなことぶらんここげば風が吹く』
 『先生が遊んでいるよ紙ふうせん』 『教室であばれまくったゴムふうせん』

まだまだ、紹介したいこどもたちの句があります。

『うららかや短なわ忘れて鬼ごっこ』 『春の風おにがいっぱいふやしおに』
 『桜の芽中学校で花開く』 『サッカーで得点決めた春の夢』
 『東風吹いて背中を押され旅立ちか』 『桜貝拾ってながめ恋の色』

本区の児童・生徒は、令和5年度も自然に親しみ、多くの俳句を詠みました。児童・生徒の作成意図を聞くと大人がその気づきに納得したり感心したりすることが多々あります。これからもこどもたちが自分の気持ちを表出できる機会を増やしていきたいと思います。

